

(様式第1号)

平成30年10月30日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : マネジメントに関する領域

科 目 名 : チームマネジメント

単 位 数 : 2単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人三重県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒514-0004

三重県津市栄町3丁目243 関権第3ビル602号室

電話 : 059-264-7741

FAX : 059-264-7742

E-mail : mie_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (一社) 三重県介護福祉士会Ⓔ

申請責任者 : 大田 京子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年10月30日
申請団体名	一般社団法人 三重県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 大田 京子
申請責任者職名	認定介護福祉士養成研修担当
申請責任者氏名	森 聖志
団体住所	〒514-0004 三重県津市栄町3丁目243 関権第3ビル602号室
同 Tel・Fax	Tel : (059)-(264)-(7741)
メールアドレス	Fax : (059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp
申請対象の領域	領域名 : マネジメントに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : チームマネジメント (2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	マネジメントに関する領域	
科目名	チームマネジメント	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	介護職のチームマネジメントについての基礎理論を獲得させるとともに、自職場において実践できるようになるための手段や知識を獲得させる。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームワークや他職種連携が進むための基礎理論のポイントについて概説できる。 ・ チームに関する基礎理論を踏まえて、介護サービス組織におけるチームの特性について説明できる。 ・ チームに関する基礎理論を踏まえて、介護サービス組織における具体的事例におけるチームの行動や力学を分析できる。 ・ 組織文化の考え方、分析の方法を習得するとともに、リーダーとして組織文化を改革していく視点を学び、理解し、他者に説明できる。 ・ 上記を踏まえて、自組織におけるチームや職種間連携の現状と改善策について検討を行うことができる。 ・ 上記を踏まえて、職場における自分自身の行動について省察を行い、今後、持論 (theory in use) を形成していく素地ができる。 	
研修内容 (研修プログラム)	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○チームに関する基礎理論とその活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームの生成過程、チームリーダーシップ、役割理論 (役割期待、役割取得、役割遂行、役割葛藤等)、チーム診断など ・ 組織行動論の基礎理論の視点での自分自身やメンバーの理解と複数チームのリーダーとしての行動、態度について <p>○他職種連携やチームが機能するための基礎知識・理論とその活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他職種の職務とメンタルモデル、連携モデル、コンフリクトマネジメント) とその活用 ・ コンフリクトの理論的な理解と介護現場に応じ 	<p>◆◆事前課題◆◆ (7時間)</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自職場における帰属チームや職種間連携の実務場面でこれまで体験したチーム活動を振り返り記述することで、チームや多職種連携チーム (MPT) の基礎理論に対する関心を持って学習に参加する。 ・ また研修本時で学ぶ基礎知識を実践の実務に結びつけて理解しようとする視点を形成することをねらいとする。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自職場における帰属チームや職種間連携支援チームでこれまで体験したチーム活動を振り返り、チームによる連携支援場面のエピソードを一つ取りあげ、そのチームの特性について、指定したワークシートに基づき具体的に記述する。 <p>【方法】</p> <p>ワークシートにより以下の点について解説せよ。</p> <p>①場面表題 (エピソードに表題をつける。中身を一言で表す名前、場面分類)</p>

<p>た解決方法・発展的解消のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自組織のチーム及び職種間連携の現状と改善策についての検討 <p>○組織文化の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織文化の考え方の理解と、介護現場のリーダーとして組織文化にどのように向き合うか ・組織文化の分析方法(競合価値観フレームなど)を用いた自組織の組織文化の分析 ・組織文化を職場メンバーで意識化し変えていく方法 	<p>②場面の概要(どのようなエピソードで、そのときチームはどうしたか)</p> <p>③当該チームの風土</p> <p>A 当該チームが持つ強み(チームの特性により実際にあがっていると思われる「優れた成果」として記載)</p> <p>B 当該チームが持つ弱み(チームの特性により実際に生じていると思われる「改善すべき課題」として記載)</p> <p>◆◆研修1日目◆◆</p> <p>(8時間 講義5時間・演習3時間)</p> <p>●演習1(導入1.5時間)</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互の理解、目標の共有、協働をへてチームとなっていく感覚を体験し、チームリーダーシップやそこに生じる役割期待、役割取得、役割遂行、役割葛藤等の実際を体験していくことで次の基礎理論講義の概念形成を助けることを狙いとす ・チームの生成過程をイメージしやすいように無秩序なメンバーグループからスタートすることを印象づける。 ・学習のはじめに緊張感をほぐし学習への積極的な参加をうながす。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職種や職場の属性などをシャッフルした混成グループを形成。 ・各グループに簡易から徐々に複雑な作業課題を提示しチームワークが形成されていく過程を体験的に再現していく <p>●講義1(基礎理論1.5時間)</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの生成過程、チームリーダーシップ、役割理論等 ・主要なチーム診断(集団発展評価尺度QDG、チームアプローチ実践評価尺度、フィディリティ評価等)を紹介 ・組織行動論の基礎理論の視点での自分自身やメンバーの理解と複数チームのリーダーとしての行動、態度について <p>【方略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1での体験事象を理論解説に引用し概念の定着を図る。
--	--

	<p>・さらに、数分程度のチーム内ダイアログを組み入れ自職場の事象との接近を図りつつ進める。</p> <p>●演習2（多職種連携事例の分析1．5時間）</p> <p>【ねらい】</p> <p>・多職種によるチーム活動事例から専門職間の理念モデル、専門的行為のフレームワークの相違と多職種連携の実践場面での現れ方を理解し、次の他職種連携やチームが機能するための基礎知識・理論とその活用についての概念形成を支援する。</p> <p>【方法】</p> <p>・A教材「医療機関緩和ケアチームカンファレンス」B教材「認知症支援に関する地域ケア会議」のモデル化した教材VTRを視聴し、</p> <p>①専門職間の理念モデル、専門的行為のフレームワークの相違</p> <p>②その多職種連携の実践場面での現れ方（効果と弊害）について</p> <p>ディスカッションを行い模造紙大のワークシートを埋めていく。</p> <p>●講義2（職種間連携の理論と実際1．5時間）</p> <p>【内容】</p> <p>・他職種の職務と理念モデル、専門的行為のフレームワーク、連携モデルの概説。</p> <p>・IPE及びIPW、コンフリクトマネジメント、連携パス、学習する組織論等、他職種連携やチームが機能するための基礎知識・理論概説</p> <p>【方略】</p> <p>・演習2の多職種連携場面の観察分析体験を理論解説に引用し概念の定着を図る。</p> <p>●講義3（組織文化2時間）</p> <p>【内容】</p> <p>・組織文化及び介護実践に特徴的な組織文化の一般的特性、組織文化の分析方法（競合価値観フレーム）概説。</p> <p>・自職場事象への適用と分析の方法的枠組み概説</p> <p>【方略】</p>
--	---

・ここまでの学習内容に加え、組織文化及びその分析方法を踏まえ、2日目の演習3、4での自組織のチーム及び職種間連携の現状とコンフリクト理論等を用いた介護現場の特性に応じた解決方法・発展的解消のあり方の検討への導入とすることで学習課題へのモチベーションを高める。

・2日目演習3、4で行う自職場エピソードの分析的プレゼン等を提示することで、1日目、2日目間の自習効果を促進する。

◆◆研修2日目◆◆

(7時間 講義3時間・演習4時間)

●演習3

(自職場エピソード分析プレゼンと共有1.5時間)

【ねらい】

・実際の自職場エピソードを1日目で学習した理論や評価手法を用いて分析し現状と課題の改善策を他者に理解が得られるよう解説できるようにする。

・他者のチーム分析や改善策に対しクリティカルな意見交換を行うことで、職場における主体的参画など自分自身の行動についての省察を導く。

・介護場面の特性を視野に入れたチームマネジメントの視点を形成する。

【方法】

・事前課題の自職場のチーム活動エピソードについて1日目の学習内容に基づき分析的にとらえ課題の改善策をグループ内でショートプレゼンテーションする。

・グループメンバーは各プレゼンごとに、ブリーフィングを実施し、その内容についてクリティカルな意見交換を行う。

・最後に共有されたグループメンバーのエピソードとその課題及び改善策の中から、最もグループ内で学びの深いと思われるエピソード1～2題を選定し、演習4の題材を決定する。

・グループメンバーの異なるエピソードから介護実践のチームアプローチに生じやすい特性への視野を形成する。

●講義 4（介護実践におけるチームの特性 2 時間）

【内容】

・個人情報管理、コンプライアンス等フィディリティの不足、変則勤務等による情報共有困難性、IPEの不足など介護実践のチームアプローチに生じやすい特性の概説。

【方略】

・演習 3 のメンバー間の発表内容を引用し概念の定着をはかる。

・演習 4 に向けた導入として解説することで、介護現場に典型的に生じやすいチーム活動の特性認識とよりよい業務改善に向けたチームマネジメントへの学習モチベーションを引き出す。

●演習 4（介護現場に典型的に生じやすいチーム活動の分析とよりよい業務改善に向けたチームマネジメント策の提案共有 2.5 時間）

【ねらい】

・介護現場に典型的に生じやすいチーム活動の分析とよりよい業務改善に向けたチームマネジメントのあり方の提案力の形成をはかる。

・日常の職場における自分自身の行動について省察を促し、チームリーダーとしての実践知を主体的に実践できる姿勢を醸成する。

【方法】

・介護実践のチームアプローチに生じやすいチーム活動の課題についてグループごとに発表を行い、提示された評価視点をもとにクリティカルな相互評価を行う。

●講義 5（まとめ・学習評価・事後課題 1 時間）

【内容】

・2日間の学習内容を振り返り、介護職のチームマネジメントについての基礎理論とその実践適用について解説する。

・基礎理論について学習効果測定を行い、事後課題の提示を行うことで学習の継続と定着を促す。

◆◆事後課題◆◆（8 時間）

	<p>【ねらい】</p> <p>・2日間の学習で得た介護職のチームマネジメントについての基礎理論や分析手法を踏まえて、自組織におけるチームや職種間連携の現状と改善策について検討を行い自身の具体的取り組みの提示とともに解説することで、職場における自分自身の行動について省察を深める。</p> <p>【方法】</p> <p>・2日間の学習内容を踏まえ、</p> <p>① 自組織におけるチームや職種間連携についてのよりよい実践に向けた改善策の提案</p> <p>② ①の実践に向けて認定介護福祉士として自分自身が取り組む具体的行動について、それぞれ1200字でまとめる。</p>
含むべきキーワード	組織行動、チーム生成過程、チームリーダーシップ、多職種協働、コンフリクトマネジメント、組織文化
研修方法	<p>■集合研修</p> <p>■課題学習</p> <hr/> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。</p> <p>○演習はグループ演習とし、講師が巡回指導を行う。</p> <p>○評価は担当講師が行う。</p>
研修時間	30時間（集合研修、課題学習一部可：15時間）
修了要件	<p>○原則として全課程の出席を要する。やむ得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。30分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。</p> <p>○事後課題はA～Dの4段階評価とし、D評価の場合は再提出を求める。事後課題の提出が期限内に行われない場合、修了を認めない。</p> <p>○基礎理論については、知識チェック（テスト）を行う</p> <p>○テスト40点、リフレクションペーパーの内容30点、自己演習+演習・講義への参加貢献度30点</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある事。 ・修士課程を修了している事。 ・①介護福祉士で介護職員として10年以上の勤務歴を有する者 ②介護現場をフィールドとした組織行動論に関わる研究論文（筆頭者以外を含む）を執筆している者 ③その他、介護現場の実態についての理解が十分あり①②に準ずると認められる者が望ましい

(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	<ul style="list-style-type: none"> ・「認定介護福祉士概論」を修了していること。 ・ユニットリーダー又はサービス提供責任者以上の職歴が3年以上の者が望ましい。
修了評価	<ul style="list-style-type: none"> ①出席状況が修了要件を満たしていること。 ②基礎理論については、知識チェック（テスト）を行う ③テスト40点、リフレクションペーパーの内容30点、自己演習+演習・講義への参加貢献度30点
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	15名（講師：1名）
開催場所（都道府県）	三重県介護福祉士会（三重県津市栄町3丁目243関権第3ビル2階研修室）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 31 年 月 日 ()
	② 平成 31 年 月 日 ()
	③ 平成 31 年 月 日 ()
開催場所 (会場)	①②③三重県介護福祉士会 (三重県津市)
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	菊池健志 氏 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター講師、実践ソーシャルワーク塾塾長、社会福祉士、元神奈川県総合療育センター地域企画課長、元神奈川県立大学実践教育センター介護教員養成課程専任教員 日本介護福祉士会リーダー(講師養成)研修講師、ファーストステップ研修講師 (長野、鳥取、三重、沖縄、滋賀、京都、大阪) 主な著書 「できることから地域福祉ノウハウ」さわやか福祉財団、「介護福祉士合格指導講座 テキスト3 社会福祉概論/老人福祉概論」通信教育講座ユーキャン共著、「わかりやすい介護保険法の手引」新日本法規出版、共著、「介護保険・保健福祉辞典」ジャパンインターナショナル総合研究所、共著ほか
	担当する講義等 修了評価 菊池健志 氏 (実践ソーシャルワーク塾塾長) 履歴等は同上
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会 (常勤:1名、非常勤:4名) 実行委員会事務局 (担当事務局員、介護福祉士会事務兼務、常勤2名) 研修実行委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸 規程	三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	

研修管理責任者氏名	会長 大田 京子
機構問合せ先部署	一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局
機構問合せ先担当者氏名	森 聖志
機構問合せ先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
機構問合せ先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
受講問合せ先部署	一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局
受講問合せ先担当者氏名	森 聖志
受講問合せ先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
受講問合せ先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	三重県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低 10 年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	大田京子（会長）
管理担当者氏名	稲木千泰（三重県介護福祉士会 事務局兼務）

別紙 1

認定介護福祉士養成研修時間割表

領域：マネジメントに関する領域

科目名：チームマネジメント

(1日目) 平成 31 年 月 日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	<p>○チームに関する基礎理論とその活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの生成過程、チームリーダーシップ、役割理論（役割期待、役割取得、役割遂行、役割葛藤等）、チーム診断など ・組織行動論の基礎理論の視点での自分自身やメンバーの理解と複数チームのリーダーとしての行動、態度について 	9:00~10:30	<p>●演習 1</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職種や職場の属性などをシャッフルした混成グループを形成。 ・各グループに簡易から徐々に複雑な作業課題を提示しチームワークが形成されていく過程を体験的に再現していく <p>●講義 1</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの生成過程、チームリーダーシップ、役割理論等 ・主要なチーム診断（集団発展評価尺度QDG、チームアプローチ実践評価尺度、フィディリティ評価等）を紹介 ・組織行動論の基礎理論の視点での自分自身やメンバーの理解と複数チームのリーダーとしての行動、態度について
	休憩	10:30~10:40	
2	<p>○チームに関する基礎理論とその活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの生成過程、チームリーダーシップ、役割理論（役割期待、役割取得、役割遂行、役割葛藤等）、チーム診断など ・組織行動論の基礎理論の視点での自分自身やメンバーの理解と複数チームのリーダーとしての行動、態度について <p>○他職種連携やチームが機能するための基礎知識・理論とその活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他職種の職務とメンタルモデル、連携モデル、コンフリクトマネジメント）とその活用 	10:40~12:10	<p>●演習 2</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A教材「医療機関緩和ケアチームカンファレンス」 B教材「認知症支援に関する地域ケア会議」のモデル化した教材VTRを視聴し、 ①専門職間の理念モデル、専門的行為のフレームワークの相違 ②その多職種連携の実践場面での現れ方（効果と弊害）について <p>ディスカッションを行い模造紙大のワークシートを埋めていく。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・コンフリクトの理論的な理解と介護現場に応じた解決方法・発展的解消のあり方 ・自組織のチーム及び職種間連携の現状と改善策についての検討 		
	休憩	12:10～13:10	
3		13:10～14:40	<p>○午前の続き</p> <p>●講義2</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他職種の職務と理念モデル、専門的行為のフレームワーク、連携モデルの概説。 ・IPE及びIPW、コンフリクトマネジメント、連携パス、学習する組織論等、他職種連携やチームが機能するための基礎知識・理論概説
	休憩	14:40～14:50	
4		14:50～16:20	<p>●講義3</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織文化及び介護実践に特徴的な組織文化の一般的特性、組織文化の分析方法（競合価値観フレーム）概説。 ・自職場事象への適用と分析の方法的枠組み概説 <p>【・2日目演習3、4で行う自職場エピソードの分析的プレゼン等を提示することで、1日目、2日目間の自習効果を促進する。</p>

(2日目) 平成31年 月 日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30～9:00	
1	1日目の続き	9:00～10:30	<p>○1日目の続き</p> <p>●演習3</p> <p>(自職場エピソード分析プレゼンと共有1.5時間)</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の自職場エピソードを1日目で学習した理論や評価手法を用いて分析し現状と課題の改善策を他者に理解が得られるよう解説できるようにする。 ・他者のチーム分析や改善策に対しクリティカルな意見交換を行うことで、職場における主体的参画など自分自身の行動についての省察を導く。 ・介護場面の特性を視野に入れたチームマネジメ

			<p>ントの視点を形成する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の自職場のチーム活動エピソードについて 1 日目の学習内容に基づき分析的にとらえ課題の改善策をグループ内でショートプレゼンテーションする。 ・グループメンバーは各プレゼンごとに、ブリーフィングを実施し、その内容についてクリティカルな意見交換を行う。 ・最後に共有されたグループメンバーのエピソードとその課題及び改善策の中から、最もグループ内で学びの深いと思われるエピソード 1～2 題を選定し、演習 4 の題材を決定する。 ・グループメンバーの異なるエピソードから介護実践のチームアプローチに生じやすい特性への視野を形成する。
	休憩	10:30～10:40	
2		10:40～12:10	<p>●講義 4</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理、コンプライアンス等フィディリティの不足、変則勤務等による情報共有困難性、I P E の不足など介護実践のチームアプローチに生じやすい特性の概説。
	休憩	12:10～13:10	
3		13:10～14:40	<p>○午前の続き</p> <p>●演習 4</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実践のチームアプローチに生じやすいチーム活動の課題についてグループごとに発表を行い、提示された評価視点をもとにクリティカルな相互評価を行う。
	休憩	14:40～14:50	
4		14:50～16:20	<p>●講義 5</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 日間の学習内容を振り返り、介護職のチームマネジメントについての基礎理論とその実践適用について解説する。 ・基礎理論について学習効果測定を行い、事後課題の提示を行うことで学習の継続と定着を促す。
	休憩	16:20～16:30	
5	筆記試験	16:30～17:15	確認のための試験

(1 時間は 45 分換算とする)